

第64回日本PTA全国研究大会・第45回日本PTA四国ブロック研究大会
徳島うずしお大会 報告

<日時>

平成28年8月20日 分科会 (13:00~17:00)
平成28年8月21日 全体会 (9:00~12:20)

<大会スローガン>

徳島発! 渦巻く力を これからの社会に巣立つ子どもたちのために
~まけまけいっぱい愛を注ぎ込もう!~

<メインテーマ>

- (1) 家庭と学校の連携のもとに地域社会全体の教育力を生かした PTA 活動
- (2) 健やかな体と思いやる心をもつ子どもを育てる PTA 活動
- (3) 大人がともに学び交流し合える P T A 活動

<参加者>

全国47都道府県 PTA 関係者 約5,000名

<概要>

1日目：分科会について

●特別第1分科会(場所：鳴門市文化会館)に参加。

研究課題は「子どもを取り巻く課題の解決に向けて～人と人との結びつきとコミュニケーション力～」。

基調講演は女優の水野真紀氏。1500席がほぼ満席。自身の芸能界での活動を通じて、コミュニケーション力の重要性を語る。また、人生を通じて自己研鑽し、スキルアップしていく必要性や、家庭で支えられない問題は、地域で支えていく環境作りが大切であることを述べた。

基調講演に続いて、「子どもたちを取り巻く課題の解決に向けて～人と人との結びつきとコミュニケーション力～」をテーマにしたパネルディスカッションが執り行われ、ネットのセキュリティの脆さや、携帯電話や SNS に潜む危険性について議論され、課題解決には人と人とのコミュニケーションの醸成が必要であるとのことであった。

●特別第2分科会に参加。

講師の方は大槌町教育委員会の箱山智美氏。

私の現在住んでいる校区もかなり、防災には力を入れていますが今回の公演を聞き、新ためて違う視野での防災と言うものを感じた。

内容としては、地震等の災害が起きた時、何をするか等の事前の備え等も大事だが、もっと身近な避難所の運営について語られていた。

避難所での運営の問題点として最も重要なことはプライバシーの確保。

いわゆる、他人との長期に渡る生活をしていくにあたり、ストレスや不安要素が相乗

効果となり、小さな問題が大きな問題に、例えば軽犯罪から大きな犯罪に発展していくというもの。

普段とは違う環境下で通常の状態を保てないこともおっしゃられていた。

よって、最優先課題はいかにプライバシーを重視するかによりその避難所の運営が大きく左右するというもの。

今回の講師は冒頭にもありましたように、東日本大震災にて大きなダメージを受けた岩手県の大槌町で実際に被災を経験しており、経験に則った話が聞け、良い経験となった。

いざ地震が起きるとライフラインを断たれパニック状態になるが、普段から、こういったシュミレーションも必要だと感じた。

2日目：全体会（場所：アスティとくしま）について

歓迎アトラクションとして、本場徳島市の阿波踊りが披露された。

記念講演は、漫画家の竹宮恵子氏で、自身の半生を振り返る形で進められた。テーマは「輝く未来をひらくために大切なこと～子どもたち、そして私たちが自立するために～」。差別嫌いが特徴の漫画家であること、満足した作品も失敗した作品も全て自分の足跡であることを話され、親の話し方一つで子どもが変わること、子どもに対し全身全霊で対応することが、その子の人生の方向性を形作る上で非常に重要であることが語られた。



▲ 歓迎アトラクションで披露された阿波踊り